

## 『目白大学高等教育研究』執筆要綱

### 【寄稿資格者】

1. 寄稿資格者は、本学の教職員（非常勤を含む）とする。
2. 第 1 著者として寄稿できるのは、1 人につき 1 件までとする（但し、第 1 著者以外なら複数件の寄稿も可能とする）。

### 【寄稿原稿のテーマ】

3. 寄稿原稿は、高等教育に関連するテーマとし、原稿種別は、「研究論文」、「事例報告」および「資料」とする。

### 【原稿の種類と枚数】

4. 本誌に掲載される原稿種別と論文等 1 篇の原稿の分量（表題・著者、英文表題・抄録、キーワード、図および表を含む。）は以下による。

（付記）本誌 1 ページは、A4 23 字×42 行×2 段（1,932 字）、文字サイズ 10.5 ポイント、横組みである。論文の表題および著者名は、1 段組である。

#### 原稿種別

##### 1. 研究論文

高等教育に関する独創的な研究内容で、高等教育の発展に役立つ内容を順序立てて明瞭に記述し、新規性、有用性、信頼性、了解性が認められるもの。原則 10 ページ以内とする。

##### 2. 事例報告

高等教育研究に関する教育活動（授業または臨床実習など）を伴う実践的な内容を含んだもので、有用性、了解性が認められるもの。原則 8 ページ以内とする。

##### 3. 資料

高等教育に関する内容で、他の研究等に役立ち、有用性、了解性が認められるもの。研究ノートを含む。原則 6 ページ以内とする。

「新規性」、「有用性」、「信頼性」、「了解性」については、それぞれ以下のように定義する。

#### （1）新規性

内容が公知、既発表または既知のことから容易には導き得るものでないこと。すでに行われていること等がまとめられたものは資料とする。

- ① 主題、内容、手法に創意工夫に満ちた知見が提示されている。
- ② 高等教育研究に関する内容を概観し、新しい提案や知見が提示されている
- ③ 学界、社会に重要な問題を提起している。

(2) 有用性

内容が高等教育研究の観点から価値があること。

- ① 主題、内容が高等教育の改善や発展に有用である。
- ② 問題の提起、試論またはそれに対する意見が有用である。
- ③ 提案されていることや実践の結果が他者の研究に有用である。

(3) 信頼性

内容が高等教育研究の観点から信頼が置けるものであること。

- ① 既往の研究との関連性の有無について明確に記述されている。
- ② 得られたデータや処理方法が正確であり、信頼が置ける。
- ③ 理論構成や論理展開・結論が妥当である。

(4) 了解性

内容が読者に理解できるように研究の目的・方法・経過・結果・知見等が簡潔、明瞭、かつ、平易に記述されていること。

- ① 全体の構成が適切である。
- ② 目的と結果が明確である。
- ③ 文章表現は適切である。
- ④ 図・表はわかりやすく作られている。
- ⑤ 全体的に冗長になっていない。
- ⑥ 図・表等の数が適切である。
- ⑦ 執筆要綱に沿って記述されている。

**【寄稿の申込み】**

5. 以下の方法で指定の期日までに寄稿の申込みを行うものとする。

- ① 指定のホームページのエントリーフォームに必要事項を記入し送信する。

**【原稿の使用用語】**

6. 原稿の使用用語は原則として和文または英文とする。

**【原稿提出の締め切り】**

7. 原稿の提出、校正、印刷、発行などの日程は原稿募集の際に告知する。

**【原稿の提出先】**

8. 原稿は電子ファイルでの提出を原則とする。原稿募集・原稿取りまとめ・編集・印刷管理進行等は、高等教育研究所が担当する。

## 【原稿作成上の注意事項】

9. 原稿作成上の注意事項は、次のとおりとする。

- (1) 本文の前に、表題・著者名（所属）を頭記し、英文の表題・著者名（所属）・抄録（和文 400 字程度、または英文 100 語程度）を付す。
- (2) 表題の文字数は 40 字までとする。
- (3) 著者が複数の場合、執筆代表者を連名者の筆頭に置く。
- (4) 本文冒頭部に日本語または英語でキーワード 5～7 語（大括弧）を付す。
- (5) 「はしがき」「はじめに」および「おわりに」「むすびに」以外の横見出しは、次のとおりとする。

1. . . . .

(1) . . . . .

(i) . . . . .

(a) . . . . .

- (6) 注および引用文献リストは、最後尾に一括する。
- (7) 本文中の文献の記載方法は、引用箇所以小括弧を用いて著者名、発行年を示す。外国人名は言語で表記する。また、複数の論文を引用した場合は、間に；を入れて、年号の古い順に記載する。  
例： 目白（2012）は～。  
例： ～（目白，2012）。  
例： ～（目白，2011；新宿，2012）。
- (8) 引用文献リストはアルファベット順に記載し、番号はつけない。各文献は、次の記述形式による。単行本の場合には、著者名、発行年（小括弧付）、書名（二重かぎ括弧付）、発行所（外国の場合には発行地）の順に、また、雑誌の場合には著者名・発表年（小括弧付）、論文表題（かぎ括弧付）、雑誌名（二重かぎ括弧付）、巻号数、論文所在ページの順に記す。
- (9) 図及び表は本文とは別に鮮明な原稿を作成し、裏面に希望する縮尺率を記し、本文中にその箇所を指定しておく。図表の幅は、1 段（23 字）または 2 段（46 字）以内のいずれかとし、両脇に余白が生じて文字を入れない。
- (10) 図（写真）及び表には通し番号を付し、表の表題は表の上部、図の表題は図の下部に記す。なお、図（写真）及び表がひとつの場合にも、図 1 または表 1 と記す。
- (11) 和文は常用漢字、現代仮名遣いを用いる。
- (12) 句読点は、和文は句点（。）と読点（、）、英文はコンマ（,）とピリオド（.）を用いる。
- (13) 数字は熟語・成語に含まれるもの以外は、アラビア数字を用いる。
- (14) 略語は一般的に用いられているものに限り、まぎらわしい略語には初出の時に原語と日本語の略語を小括弧付で付す。
- (15) 外国人名は通常片仮名書きとし、初出の時に原語を小括弧付で付す。
- (16) 英文及び表題の英語表記に関しては、ネイティブチェックを行なう。
- (17) 提出する原稿には各ページ最下部中央にページ数を付す。

10. 論文中に調査・実験が含まれる場合、適切な倫理的配慮の下で行い、かつ配慮の内容を論文中に明記すること。
- (1) 人及び動物を対象とする研究に基づき研究論文を執筆する場合には、必要に応じて倫理審査委員会等での承認を経たうえで研究を実施し、本文中に倫理的配慮の内容を明記するとともに、承認を受けている場合、承認番号を記載すること。
  - (2) 人及び動物を対象とする研究に基づき事例報告または資料を執筆する場合には、適切に倫理的な配慮の下で研究を実施し、本文中に倫理的配慮の内容を明記すること。

**【その他】**

11. 研究論文には査読、事例報告・資料については閲読の審査がある。なお、査読及び閲読の結果は「採録」、「種別を変更して採録」、「条件付採録」、「返戻」として著者に通知する。条件付採録の場合、再査読ないし再閲読を行い、その結果「採録」ないし「種別を変更して採録」の判断とならないものについては、原則として返戻とする。
12. 掲載された原稿の著作権は「目白大学研究紀要出版規定」に準じ、本学に帰属する。ただし、執筆者は本学の許可を得ずにその論文内容を出版、複製、翻訳及び翻案等に利用できる。

以上